

ブロイラーの肉質改善に関する試験 軍鶏の利用と保存に関する試験

殿内正芳*・清水幸次*・永田信一*

Studies on Quality Improvement of Chickens for Meat Production

Experiments on utilization and preservation of Japanese Games

Masayoshi TONOUCHI, Koji SHIMIZU and Shinichi NAGATA

(要 旨)

軍鶏の育成と産卵性について調査するとともに、軍鶏と他鶏種との交雑種をブロイラーとして育成し、その解体調査を行なった。産卵数は平均年95個、卵重は52gで就巢性は4月から8月に渡って発現し最高月には77%が就巢した。性成熟は初産日令300日、卵重48g、体重2.7kgで産卵性に関しては個体差が大きい。飼料摂取量は平均148g、要求率10.972で産卵の良い4月で5.494であった。健康状態は悪癖と思われる趾つつきによる死亡淘汰鶏が多く33%で、次いで痛風が22%であった。孵化成績は軍鶏、交雑種ともに授精率80%以上で、発生率は70%以上であった。軍鶏の育成率は24週令で雄70%、雌71%で体重はそれぞれ2,456g、1,991gで飼料要求率は5.1と5.5であった。ブロイラーの成績は専用種と軍鶏を雄としたコーニッシュ、白ロックの交雑種とが体重、要求率ともにほぼ同じであり、ロードアイランドレッド種の交雑種は、育成率は最も良かったが体重、要求率は劣った。解体調査は10週から2週ごとに4回行なったが歩留は特定の鶏種が常に同じ順位ではなかった。

ま え が き

軍鶏の1代雑種のブロイラーとしての可能性を48年度より追求して来たが49年度は前年の逆の交配で実施し、軍鶏は48年産鶏の性能調査と49年度孵化雛の育成調査を実施した。

試験材料および方法

1. 供試鶏 普通軍鶏(JG)の雄20羽雌80羽、交雑用の白ロック(WR)、白コーニッシュ(WC)、ロード(SR)、等各20羽を使用し、雛は軍鶏の育成調査用169羽、ブロイラー育成調査用288羽を使用した。

2. 飼養管理 飼養法は成鶏、育成共に平飼方式で成鶏は1雄5雌を基準として収容し、一般管理、衛生管理等は当場の慣行に従い、雛に対してはマレックワクチンを接種した。成鶏は10月以降はケージ飼育とした。飼料は一般市販飼料を全期間不断給餌とした。ブロイラー調査

は立体群飼ゲージ方式で行なった。給与飼料と週令は表1のとおりである。

3. 期間 産卵期間：48.12.1～49.11.20 育成期間：49.4.19～24週令まで、ブロイラー調査期間：49.6.7～16週令まで。
4. 調査項目 産卵状態、卵重、体重、飼料消費量、就巢状況、ふ卵成績、疾病、育成率、と殺解体調査。

試験結果及び考察

1 産卵鶏の成績

(1) 産卵状況

産卵調査鶏の性成熟状況は表2のとおりであって、初産日令の最長は367日、最短は235日、初産卵重最大は58g、最小は40g、体重は最大3.1kg、最小2kgで各項目とも個体差が大きく、48羽中250日令までに産卵を開始した鶏は12.5%、325日令までは37.5%、350日令までは16.7%、350日令以上の鶏は8.3%、卵重は僅かであるが

表1 給与飼料及び週令

区分	飼料区分	給与期間	粗蛋白質	粗脂肪	粗繊維	粗灰分	養分総量
軍 鶏 用	幼すう用	6週まで	20.0%以上	3.0	5.0	8.0	66.0
	中すう用	14 "	17.0 "	3.0	5.0	8.0	
	大すう用	30 "	14.0 "	3.5	2.3	6.5	
	成鶏用	31週以降	16.0 "	3.5	3.3	4.1	
ブ ロ イ ラ ー 用	幼すう用	4週まで	20.0 "	3.0	5.0	8.0	71.0
	ブロイラー用	5週以降	18.0 "	3.6	2.4	10.0	

表2 性成熟状況

ふ化日	羽数	日令	卵重	体重
48. 4. 6	21	310.0	48.8	2.843
4. 27	27	291.5	47.6	2.637
計又平均	48	299.6	48.1	2.727

初産日令の増加により大きくなった。産卵数と卵重の月別状況は表3のとおりである。年平均産卵率より上廻って産卵している月は4月を頂点として、3月、5月、6月と11月の5ヶ月間で、初産日令が遅く、就巢性が初夏より多くなるために産卵が少ない。産卵数、卵重ともに

個体差が大きい。調査鶏55羽の内終了鶏は37羽で終了率は67.2%で、この37羽の産卵個数別羽数と平均卵重は表4のように最高202個、最低34個、平均99個で、100個台の産卵羽数が最も多かった。卵重は90~100個台産卵のものが比較的大きく53g台であった。

(2) 就巢性の発現状況

就巢は4月上旬から発生し、8月まで断続的に発現し、9月に就巢状態が不明確になった。発現の最も多い月は7月で約77%が就巢した。月別の就巢状況は表5のとおりである。

(3) 健康状態

死亡淘汰の原因は悪癖（趾つつき）が多く、次いで痛風症であった。疾病の発生状況は表6のとおりである。

表3 月別産卵状況

月別 区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計又平均
産卵数	116	217	557	899	640	340	223	168	136	279	573	44	4,183
延羽数	1,677	1,451	1,493	1,397	1,303	1,170	1,209	1,209	1,158	1,178	1,117	1,705	16,067
産卵率	6.9	15.0	37.3	63.7	49.1	29.0	18.4	13.9	11.7	23.7	51.3	2.6	26.0
産卵数	2	4	11	19	15	9	5	4	3	7	15	1	95
卵重	48.4	48.8	50.2	51.6	51.8	52.0	52.2	52.8	55.2	54.4	55.0	46.6	52.0

表4 産卵数別羽数分布と平均卵重

卵数別 区分	200個台	190	140	130	110	100	90	80	70	40	34	計又平均
羽数(羽)	1	1	2	1	4	9	5	3	6	1	1	37
指数(%)	2.7	2.7	5.4	2.7	10.8	24.3	13.5	8.1	16.2	2.7	2.7	100
卵重(g)	52.5	51.7	50.3	51.8	50.7	53.7	53.1	52.1	51.1	49.0	54.7	51.9

表5 月別就巢鶏発現状況

月別			12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計又平均
区分															
就巢鶏	発現率		0	0	0	0	2	11	24	30	27	0	0	0	94
未就巢鶏	発現率		0	0	0	0	4.7	27.5	61.5	76.9	69.2	0	0	0	18.1
就巢鶏	未就巢率		55	54	51	47	41	29	15	9	12	38	38	37	423
未就巢鶏	未就巢率		100	100	100	100	95.3	72.5	38.5	23.1	30.8	100	100	100	81.9

表6 成鶏の病類別月別発生状況

月別		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計	発生率
病名															
悪癖	癖		2		3			1						6	33.3
痛風	風			1	1	1	1							4	22.2
肝破裂	裂					2								2	11.1
内出血	血						1							1	5.6
心疾患	患										1		1	2	11.1
脱肛	肛			1										1	5.6
卵つ	い					1	1							2	11.1
計		0	2	2	4	4	3	1	0	0	1	0	1	18	100
発生率		0	11.1	11.1	22.2	22.2	16.6	5.6	0	0	5.6	0	5.6	100	

表7 体重の月別変化 kg

月別		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均
区分														
平均体重	重	2,465	2,625	2,737	2,690	2,870	2,748	2,492	2,408	2,444	2,429	2,729	2,762	2,618
指数	数	94.2	100.3	104.5	102.8	109.6	105.0	95.2	92.0	93.4	92.8	104.2	105.5	100

表8 1日1羽当飼料摂取量 g

月別		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均
区分														
摂取量	量	144	148	193	159	182	168	122	123	124	142	114	148	148

体重の状況は4月を頂点として前後が低下し年平均体重を上回る月は、1月から5月までと10、11月の7ヶ月間で6月以降の低下は就巢、暑さ等による食欲の減退が体重の減量となって現れたものと思われ、春期は約47%が3kgを越しているが年間を通じて3kgを維持してきた個体はなかった。体重の月別変化は表7のとおりである。

(4) 飼料の摂取状況

飼料の摂取量は春季に多く、夏季低下し、秋季に回復してこの状況は表8のようである。飼料の要求率は

年間平均10.972で、3～6月までの間と秋季の10、11月の6ヶ月間は8～5の要求率であった。その状況は表9のとおりである。

(5) ふ化成績

軍鶏のふ化は春2回実施した。その成績は表10のとおりであり、ブロイラー・発育調査用の交雑種のふ化成績は表11のとおりで、軍鶏雄とロード雌を交配した種卵が良かった。軍鶏雄と白ロック雌の交配種卵は受精率は良かったが中止、死ごもりが多く、発生率等が他の区より悪

表9 月別飼料摂取量産卵量飼料要求率

月別 区分	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計又平均
摂取量	245,520	248,196	280,043	237,387	254,254	218,904	142,740	148,707	149,916	164,436	134,292	165,316	2,389,711
産卵量	2,068	5,568	10,633	27,850	46,280	33,152	17,680	11,596	8,904	7,480	15,066	31,515	217,792
要求率	118.723	44.575	26.337	8.524	5.494	6.603	8.074	12.824	16.837	21.983	8.914	5.246	10.972

表10 軍鶏のふ化成績

回数	入卵数	無授 数	精卵 率	中止 数	卵 率*	死ごもり 数	率*	発 数	生 率*	備 考
1	269	51	19.0	17	6.3	23	8.5	178	66.2	* 上段は入卵数に対 する率
		218	81.0		7.8		10.6		81.6	
2	458	49	10.7	37	8.1	69	15.0	303	66.2	下段は授精卵数に対 する率
		409	89.3		9.0		16.9		74.1	
計	727	100	13.8	54	7.4	92	12.6	481	66.2	
		627	86.2		8.6		14.7		76.7	

表11 交雑種のふ化成績

交配様式 ♂ ♀	入卵 数	無授 数	精卵 率	中止 数	卵 率*	死ごもり 数	率*	発 数	生 率*	備 考
WC×WR	123	12	9.8	10	8.1	10	8.1	91	74.0	* 上段は入卵数 に対する率
		111	90.2		9.0		9.0		82.0	
JG×WR	170	16	9.4	20	11.8	21	12.3	113	66.5	下段は授精卵 数に対する率
		154	90.6		13.0		13.6		73.4	
JG×WC	200	35	17.5	15	7.5	13	6.5	137	68.5	
		165	82.5		7.9		7.9		83.0	
JG×SR	200	27	13.5	9	4.5	3	1.5	161	80.5	
		173	86.5		5.2		1.7		93.1	

かった、その原因は判明しない。

2 育成成績

(1) 軍鶏の育成成績

軍鶏の育成は平飼方式で育雛には電球による育雛箱を使用した。育成率は24週令で雄約70%、雌71%で比較的良かったが、廃温後に急冷の日があったために集合癖が現われ、ために圧死又はそれが原因となって発育が不良となり、死亡又は淘汰する雛が発生した。脚、趾、嘴の曲ったものの発生が多かった。それらの状況は表12、13のとおりである。

(2) ブロイラー育成成績

ア 育成状況

白コーニッシュ雄と白ロード雌の交雑種(WC♂×WR♀)を対照区とし、軍鶏雄と白コーニッシュ雌の交雑種(JG♂×WC♀)を試験1区、軍鶏雄と白ロード雌の交雑種(JG♂×WR♀)を試験2区、軍鶏雄とロード雌の交雑種(JG♂×SR♀)を試験3区とし、各区36羽づつ雄雌別に育成した。育成率は特別に悪い区がなく、4週までは餌付不良の弱雛で死亡した雛が試験1、2区にあり、その後は脚弱が各区に発生し、尻つつきも1、2区に発生をみたが、育成率は最高97.2%から最低72.2%で各区共に雌が雄よりも良く、雌雄合せた育成率では試験3区、対照区、試験2区、試験1区の順でそれぞれ約93、89、85、81%の育成率であった。発育体重

表12 軍 鶏 の 育 成 成 績

区 分			週 別		0	4	8	10	14	16	24	備 考
雄	育 成 率					97.7	90.7	87.2	83.7	72.1	69.8	餌付羽数 86羽
	体 重	平 均 体 重	35	250	624	856	1,254	1,348	2,456			
		期 間 増 体 重		215	374	232	398	94	1,108			
		〃 増 体 重 率		714.3	249.6	137.2	146.5	107.5	182.2			
		通 算 増 体 重		215	589	821	1,219	1,313	2,421			
		〃 増 体 重 率		714.3	1,782.9	2,445.7	3,582.9	3,851.4	7,017.1			
	1羽当 飼料量	期 間 通 算		577	1,322	993	2,316	917	6,227			
	飼 料 要求率	期 間 通 算		2,684	3,535	4,280	5,819	9,755	5,620			
					3,224	3,523	4,272	4,665	5,102			
	雌	育 成 率					98.8	91.6	90.4	84.3	79.5	71.1
体 重		平 均 体 重	34	234	580	786	1,105	1,304	1,991			
		期 間 増 体 重		200	346	206	319	199	687			
		〃 増 体 重 率		688.2	247.9	135.5	140.6	118.0	152.7			
		通 算 増 体 重		200	546	752	1,071	1,270	1,957			
		〃 増 体 重 率		688.2	1,705.9	2,311.8	3,250.0	3,835.2	5,855.7			
1羽当 飼料量		期 間 通 算		574	1,201	921	1,859	1,046	5,214			
飼 料 要求率		期 間 通 算			1,775	2,696	4,555	5,601	10,815			
				2,870	3,471	4,471	5,828	5,256	7,589			
					3,251	3,585	4,253	4,410	5,526			

表13 週 令 別 病 類 表

病名	性	週別		4	8	10	14	16	24	合		計	発病率				
		♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	計					
事発 (庄脚趾噴白)	育不 (死曲曲曲症)	2	1							2	1	3	6				
				6	6	2	1			8	7	15	30				
						1		2	2	3	2	6	12	24			
								2	1	2	3	5	10	10			
							3	1	2	1	3	6	4	10	20		
血	症							1		2	2	2	3	5	10		
										2	3	5	10	10			
計		2	1	6	6	3	1	3	5	4	4	8	7	26	24	50	100
発病率		6		24		8		16		16		30		100			

は1kg以上に達した週令は対照区では雄8週雌10週、試験1区、2区では雄雌いずれも10週、試験3区では雄10週、雌12週であった。12週令で比較すると平均体重は対照区、試験1、2、3区の順で、その差は雄は対照区に対して1区は約100g、2区は200g、3区は約500gと夫々小さく、また雌は対照区に対して1区は約40g、2

区は約100g、3区は300gと夫々小さかった。雌は雄よりもその差が少なく、発育の斉一性は3区が良く、次いで2区、対照区、1区の順であった。12週、14週、16週の体重は検定の結果各週とも全体では有意差が認められた。成績は表14のとおりである。飼料の摂取状況を表15に示したが、12週令で対照区の雄は約5.1kg雌4.1kg、試

表14 育 成 成 績 表

区別	種別	性別	項 目	餌付時	4 週	8 週	10週	12週	14週	16週
対 照 区	WC ♂	♂	平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	42.08	419.3 377.3	1100.7 681.4	1474.3 373.6	1844.2±195 639.9	2320.7±238 476.5	2919.2±287 598.5
			平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	36羽	100%	1058.7 1.806	1432.3 0.548	1802.2 0.990	2278.7 1.288	2877.2 1.256
	WR ♀	♀	平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	41.9	373.1 331.2	922.9 549.8	1210.6 287.7	1451.2±101 240.6	1804.0±161 352.8	2182.0±241 378.0
			平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	36	97.2	1060.0 1.660	1168.7 0.523	1409.3 0.836	1762.1 1.466	2140.1 1.071
試 験 1 区	JG ♂	♂	平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	43.2	378.2 335.0	995.1 616.9	1370.3 375.2	1736.3±211 366.0	2088.7±235 352.4	2529.1±299 440.4
			平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	36	100	951.9 1.841	1327.1 0.608	1693.1 1.267	2045.5 0.963	2485.9 1.250
	WC ♀	♀	平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	41.5	333.2 291.7	810.9 477.7	1119.3 308.4	1414.7±188 295.4	1630±173 215.6	1871.4±212 241.1
			平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	36	91.7	769.4 1.638	1077.8 0.645	1373.2 0.958	1588.8 0.730	1829.9 1.118
試 験 2 区	JG ♂	♂	平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	41.3	351.0 309.7	912.4 561.4	1278.3 365.9	1656.0±175 377.7	2028.9±85 372.9	2359.6±250 830.7
			平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	36	91.7	871.1 1.812	1237.0 0.651	1614.7 1.032	1987.6 0.987	2318.3 0.887
	WR ♀	♀	平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	41.4	320.0 278.6	792.4 472.4	1062.2 269.8	1359.7±155 297.5	1650.7±169 291.0	1904.6±209 253.9
			平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	36	88.9	751.0 1.696	1020.8 0.571	1318.3 1.103	1609.3 0.978	1863.2 0.873
試 験 3 区	JG ♂	♂	平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	39.4	298.1 258.7	744.1 446.8	1020.0 275.1	1309.4±126 289.4	1595.5±138 286.1	1951.4±192 355.9
			平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	36	100	705.5 1.727	980.6 0.616	1270.0 1.284	1556.1 0.989	1912.0 1.244
	SR ♀	♀	平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	38.8	268.5 229.7	670.0 401.5	911.7 241.7	1148.6±120 236.9	1387.0±145 238.4	1695.9±167 308.9
			平期 均間 増積 増成 体率 増成 体率	36	100	631.2 1.748	872.9 0.602	1109.8 0.980	1348.2 1.006	1657.6 1.296

試験1区は雄4.6kg雌3.8kg、試験2区の雄が4.4kg雌3.7kg
試験3区の雄4.4kg、雌3.2kgで平均体重の大きい順に摂
取量が多くなっている。飼料の要求率は雄では対照区、

試験1区、2区、3区の順でそれぞれ2.716、2.739、
2.752、3.459であり、雌では試験1区、2区、3区、対
照区の順でそれぞれ2.753、2.842、2.922、2.926であっ

た。14週令の雄の摂取量は試験1区、2区、対照区、3
区の順で約6.0kg～5.6kgで要求率は対照区、試験2区、
1区、3区の順で約2.5～3.6であり、雌の摂取量は対照
区、試験1区、2区、3区の順で約5.5kg～4.5kgで、そ
の要求率は試験2区、対照区、試験1区、3区の順で約
3.0～3.3であった。16週令の雄では対照区、試験1区、

區別	種別	性別	項目	餌付	4週	8	10	12	14	16
對照區	WC ♂ × WR ♀	♂	攝1日羽取量 1羽取間積 1期累求	36羽	kg 16.6 16.5 462.0 1.224	72.9 73.8 2066.4 2514.4 3.032 2.375	41.6 92.9 1300.6 3759.0 3.481 2.624	43.7 100.7 1409.8 5107.2 3.811 2.716	50.4 120.1 1681.4 5712.0 3.529 2.507	52.9 130.3 1824.2 8411.2 3.048 2.923
		♀	攝1日羽取量 1羽取間積 1期累求	36	13.0 13.2 369.6 1.115	56.9 59.1 1654.8 2010.4 3.009 2.282	34.8 75.3 1054.2 3045.0 3.664 2.605	36.4 78.8 1103.2 4124.4 4.585 2.926	54.7 102.0 1428.0 5517.4 4.047 3.131	52.7 121.5 1701.0 7145.6 4.500 3.339
	JG ♂ × WC ♀	♂	攝1日羽取量 1羽取間積 1期累求	36	13.4 13.3 372.4 1.111	64.1 64.4 1803.2 2167.2 2.923 2.277	40.1 84.8 1187.2 3325.0 3.164 2.505	42.9 99.5 1393.0 4636.8 3.806 2.739	39.6 109.4 1531.6 5997.6 4.346 3.411	48.4 145.8 2041.2 7750.4 4.635 3.117
	JG ♂ × WC ♀	♀	攝1日羽取量 1羽取間積 1期累求	36	8.9 9.6 268.8 0.921	47.9 51.8 1450.4 1713.6 3.036 2.227	32.8 73.2 1024.8 2723.0 3.323 2.131	34.2 76.3 1068.2 3780.0 3.616 2.753	38.2 90.9 1272.6 5007.8 5.903 3.152	43.2 106.4 1489.6 6428.8 6.178 3.513
試驗區2	JG ♂ × WR ♀	♂	攝1日羽取量 1羽取間積 1期累求	36	11.5 12.4 347.2 1.121	54.7 60.2 1685.6 2016.0 3.002 2.314	36.0 83.5 1169.0 3157.0 3.195 2.552	40.0 95.2 1332.8 4443.6 3.529 2.752	42.0 107.1 1499.4 5860.4 4.021 2.948	42.5 112.4 1573.6 7347.2 4.758 3.169
		♀	攝1日羽取量 1羽取間積 1期累求	36	7.0 7.7 215.6 0.773	47.6 53.2 1489.6 1691.2 3.153 2.252	30.3 69.8 977.2 2653.0 3.622 2.599	34.4 79.3 1110.2 3746.4 3.732 2.842	35.0 86.2 1206.8 4909.8 4.147 3.051	42.2 107.6 1506.4 6339.2 5.933 3.402
	JG ♂ × SR ♀	♂	攝1日羽取量 1羽取間積 1期累求	36	20.0 19.8 554.4 2.143	58.0 58.6 1640.8 2184.0 3.672 3.096	36.6 74.7 1045.8 3227.0 3.801 3.291	41.2 84.4 1181.6 4393.2 4.083 3.459	41.0 93.2 1304.8 5644.8 4.561 3.627	52.0 116.3 1628.2 7201.6 4.575 3.766
	JG ♂ × SR ♀	♀	攝1日羽取量 1羽取間積 1期累求	36	9.0 8.9 249.2 1.084	42.7 42.4 1187.2 1433.6 2.956 2.271	31.0 63.3 886.2 2310.0 3.666 2.646	33.0 67.3 942.2 3242.4 3.977 2.922	43.3 93.7 1311.8 4508.0 5.502 3.343	57.4 128.1 1773.4 6204.8 5.806 3.743

表16 週令別病類表

区別	種別	病名	4	8	10	12	14	16	計	指	数
対照区	WC♂ × WR♀	発育不良		1					1	25	
		脚曲			3	1			4		23.5
		餌付不良	1						1	9.1	
		発育不良		1					1	25	
試験1区	JG♂ × WC♀	脚曲		1					1	25	
		尻つつき			2	2			4		23.5
		餌付不良	3			1	4		5		83.3
		脚曲		1					1		5.9
試験2区	JG♂ × WR♀	餌付不良	3						3	27.3	
		脚曲		2	1				3		17.6
		餌付不良	4						4	36.3	
		脚曲		1					1		5.9
試験3区	JG♂ × SR♀	発育不良		1					1	25	
		脚曲			1			1	2		11.2
		尻つつき					1		1		16.7
		脚曲		1					1		5.9
計		餌付不良	11						11	29.0	100
		発育不良		4					4	10.5	100
		脚曲		6	7	3		1	17	44.7	100
		尻つつき				1	5		6	15.8	100
		計	11	10	7	4	5	1	38	100	
		指数	28.9	26.3	18.4	10.5	13.2	2.6	100		

2区、3区の順で約8.4kg~7.2kg、要求率も同じ順位で約2.9~3.7であった。雌の摂取量も雄と同じ順位で約7.1kg~6.2kgで要求率は対照区、試験2区、1区、3区、の順で約3.3~3.7であった。12週令における飼料要求率は試験3区の雄を除けば他の区はその差が僅かであるが、14週令16週令に要求率に差ができたのは、期間要求率が対照区では良くなったのに反して試験区が悪くなったためである。

イ 羽装及び冠型

交雑種の羽装は、試験1区は雄雌ともに汚白色で黒斑が僅かに入った状態から褐色羽毛が多く入った状態など雑多であった。2区の雄は横斑ロック色でやや薄い汚れた状態で雌は薄黒色であった。3区は雄雌ともにロード色であった。冠型は1区が軍鶏に似た型であるが2区、3区は単冠であった。

ウ 健康状態

4週までの死亡雛は餌付不良のものであって、その後では脚が曲る状態で死亡淘汰されたものが多い。尻つつ

表17 週 令 別

週令	区 別	性別	生体重	屠体重	毛拔体重	脚 重	頭 重	棄却内臓	枝肉重	歩 留	可食内臓	歩 留
一 〇 週 令	対 照	♂	1320 g	1285 g	1160 g	103 g	46 g	151 g	760 g	57.6%	78 g	5.9%
	試 1		1470	1450	1335	139	47	174	820	55.8	95	6.5
	2		1280	1185	1125	109	45	109	774	60.5	93	7.3
	3		1020	975	965	85	51	97	670	65.7	43	4.2
	対 照	♀	1320	1305	1165	91	30	137	803	60.8	80	6.1
	試 1		1160	1140	1065	76	41	115	760	65.5	65	5.6
	2		1040	980	940	84	38	90	644	61.9	61	5.9
	3		960	900	830	77	33	97	566	59.0	59	6.1
	対 照	♂	1840	1780	1705	150	54	178	1123	61.0	99	5.4
	試 1		1790	1690	1590	150	56	142	1103	61.6	95	5.3
	2		1610	1510	1455	126	38	145	986	61.2	90	5.6
	3		1280	1225	1160	106	49	114	773	60.4	74	5.8
一 二 週 令	対 照	♀	1470	1420	1300	102	42	141	860	58.5	90	6.1
	試 1		1500	1440	1380	96	45	125	956	63.7	97	6.5
	2		1320	1225	1200	84	40	140	841	63.7	91	6.9
	3		1130	1100	1005	77	39	108	581	51.4	71	6.3
	対 照	♂	2320	2200	2050	170	67	230	1457	62.8	119	5.1
	試 1		2040	1970	1870	162	67	226	1280	62.7	125	6.1
	2		2050	1960	1860	154	65	266	1264	61.7	108	5.3
	3		1560	1490	1430	132	56	213	939	60.2	104	6.7
	対 照	♀	1800	1750	1650	100	58	150	1201	66.7	100	5.5
	試 1		1650	1580	1490	96	53	148	1096	66.4	84	5.1
	2		1630	1560	1450	98	53	159	1028	63.1	90	5.5
	3		1340	1300	1240	90	48	150	862	64.3	83	6.2
一 四 週 令	対 照	♂	2919	2750	2530	180	81	253	1891	64.8	125	4.3
	試 1		2520	2400	2160	164	62	312	1495	59.3	138	5.4
	2		2380	2310	2100	158	68	219	1474	61.9	133	5.5
	3		1990	1900	1830	148	61	196	1296	65.1	121	6.0
	対 照	♀	2180	2010	1900	140	60	230	1351	62.0	119	5.4
	試 1		1880	1825	1645	93	49	183	1211	64.4	98	5.2
	2		1970	1930	1735	100	51	214	1282	65.0	105	5.3
	3		1720	1660	1535	93	50	181	1111	64.5	88	5.1

解 体 成 績

肝臓	心臓	脾臓	腎臓	前胃	筋胃	骨 量 歩 留	肉 量 歩 留	肉量+ 可食内臓	歩 留	枝肉量+ 可食内臓	歩 留
28 g	7 g	2 g	9 g	6 g	26 g	231 g 17.5%	529 g 40.0%	607 g	46.0%	838 g	63.5%
42	10	3	14	6	20	284 19.3	536 36.5	631	42.9	915	62.2
32	9	4	12	6	30	239 18.7	535 41.8	628	49.1	867	67.7
24	6	1	9	3	15	236 23.1	434 42.5	477	46.8	713	69.9
26	9	3	10	5	27	239 18.3	564 42.7	644	48.8	883	66.9
22	8	1	9	4	21	229 19.7	531 45.8	596	51.4	825	71.1
21	6	4	5	4	21	201 19.3	443 42.6	504	48.5	705	67.8
21	5	1	8	4	20	175 18.2	391 40.7	450	46.9	625	65.1
38	11	4	14	5	27	351 19.1	772 42.0	871	47.3	1222	66.4
37	13	2	10	4	23	348 19.4	755 42.2	850	47.5	1198	66.9
34	8	5	12	5	26	322 20.0	664 41.2	754	46.8	1076	66.8
28	8	3	9	5	21	259 20.2	514 40.0	588	45.9	847	66.2
32	9	4	10	6	29	269 18.3	591 40.0	681	46.3	950	64.6
32	9	6	14	6	30	273 18.2	683 45.5	780	52.0	1053	70.2
37	7	6	10	6	25	252 19.1	589 44.6	680	51.5	932	70.6
25	7	3	8	5	23	124 11.0	457 40.4	528	46.7	652	57.6
45	13	5	16	10	30	422 18.2	1035 44.6	1154	49.7	1579	68.0
44	14	11	14	10	32	380 18.6	900 44.1	1025	50.2	1405	68.9
31	12	4	17	7	29	387 18.9	877 42.8	985	48.0	1372	66.9
36	13	3	16	6	30	301 19.3	638 40.9	742	47.6	1043	66.9
35	10	6	13	8	28	310 17.2	891 49.5	991	55.5	1801	72.3
32	9	3	11	7	22	288 17.5	808 49.0	892	54.1	1180	71.5
32	8	4	13	6	27	286 17.5	742 45.5	832	51.0	1118	68.6
30	6	3	10	6	28	275 20.5	587 43.7	670	50.0	944	70.4
46	13	7	14	8	37	465 15.9	1426 48.8	1551	53.1	2016	69.1
52	15	9	19	9	34	417 16.5	1078 42.7	1216	48.3	1633	64.8
61	15	5	14	6	32	419 17.6	1055 44.3	1188	49.9	1607	67.5
51	13	4	14	7	32	396 19.8	900 45.2	1021	51.3	1417	71.2
40	13	4	16	10	36	380 17.4	1057 48.5	1176	53.9	1470	67.4
32	13	2	12	7	32	308 16.3	903 48.0	1001	53.2	1309	69.6
36	11	4	11	7	36	349 18.5	933 47.3	1038	52.7	1387	70.4
33	9	3	13	5	25	299 17.3	812 47.2	900	52.3	1199	69.7

表21 体 重 の 月 別 変 化

種別	月別	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平 均
SR♂×JG♀		2.5kg	2.68	2.85	2.775	2.825	2.9	2.55	2.65	2.867	2.933	2.933	2.9	2.780
WR♂×JG♀		2.533	2.533	2.433	2.667	2.867	2.7	2.4	2.55	2.55	2.5	2.5	2.5	2.561

体重はロード雑が白ロック雑よりやや重くその月別の变化は表21のとおりである。

ロード雑の外観は薄赤褐色の羽装で単冠であってロードに似ている。白ロック雑の外観は冠型、羽装共に赤笹型、黒型の軍鶏に似ていて、雄には横斑ロック型や赤笹

の横斑ロック型、軍鶏型に似ているなど雑多であった。

1代雑種は雑種強性により産卵性は原種の雌より増強され良くなり、就巢性は軍鶏よりも弱く現れる等良い結果がみられ、優れた軍鶏を基礎として交配種を作れば産卵性からみた母系の種鶏は出来るかとも思われる。